



血液内科動画 膜原病内科動画



1. スタッフ

診療科長(教授) 松岡 雅雄
 准教授 1名、講師 2名、
 特任講師 1名、助教 3名
 特任助教 3名、医員 15名

2. 診療科の特徴、診療内容

当科（旧第二内科）は、これまで医学史上多くの顕著な成果を挙げてきた。高月清元教授により成人T細胞白血病(ATL)が独立した疾患として提唱され、その原因ウイルスであるHTLV-1が発見された。骨髓異形成症候群や腎性貧血などの治療に画期的であったエリスロポイエチンは宮家隆次博士によって当科で精製され、後に米国に渡った同博士によりその生物学的特性が初めて明らかにされた。満屋裕明前教授は世界で最初の抗エイズウイルス薬であるAZTを開発し、その後、ddI, ddC, darunavirなども開発しエイズ患者の予後を著しく改善した。また松岡教授はATLにおいてHTLV-1のHBZタンパクによる発がん機構を明らかにした。

入院患者は、約8割が血液疾患、約2割が膜原病、感染症、免疫不全疾患などで占められている。日々進歩、変化する標準治療法を速やかに導入すると同時に、全国の臨床治療研究や新規薬剤の治験にも積極的に参加しより良い治療の提供を目標としている。

3. 診療体制（令和4年度）

○外来診療体制

	月	火	水	木	金
血液内科	上野	内場	松岡	野坂	野坂
	徳永		川口	安永	岩永
	河野		米村		遠藤
	樋口		立津		
			河野		
			樋口		
膠原病内科	平田	岩倉	平田	坂田	坂田
	村井	水橋			村井

○病棟診療体制

曜日	午 前	午 後
月	病棟業務・外来処置	グループ回診
火	教授回診 医局会	リサーチカンファレンス
		移植カンファレンス
		リンパ腫カンファレンス
		膠原病カンファレンス
水	病棟業務・外来処置	骨髄腫カンファレンス
木	病棟業務	形態カンファレンス
金	病棟業務・外来処置	

4. 診療実績

○疾患別の患者数 (令和4年度入院患者)

●血液内科

●膜原病内科

疾患	初診	総数	疾患	初診	総数
急性骨髓性白血病	7	17	IgG4関連疾患	11	11
急性リンパ性白血病	4	8	全身性エリテマトーデス	8	15
骨髓増殖性疾患	4	5	関節リウマチ	6	10
骨髓異形成症候群	3	16	多発性筋炎、皮膚筋炎	6	9
悪性リンパ腫	66	118	強皮症	6	9
成人T細胞白血病	18	27	ANCA関連血管炎	3	5
多発性骨髄腫、形質細胞腫	12	41	結節性多発転移性	3	3
原発性マクログロブリン血症	1	2	混合性結合組織病	2	2
ALアミロイドーシス	6	9	高安眠薬	2	2
再生不良性貧血等貧血	5	9	ベーチェット病	1	1
特発性血小板減少性紫斑病等	4	4	成人Still病	1	1
血友病	2	2	その他	11	12
その他	5	9			

○主要な疾患の治療実績（成績）

急性白血病：令和4年度は、初発急性白血病患者11例に寛解導入療法を行い、寛解率は82%であった。

慢性骨髓性白血病：imatinib 15例、nilotinib 25例、dasatinib 18例、bosutinib 6例、ponatinib 2例で良好な反応が得られ、14例が長期に無治療寛解を維持している。

多発性骨髄腫、ALアミロイドーシス：令和4年度は初発の多発性骨髄腫患者と全身性ALアミロイドーシス患者の合計22例に化学療法を開始した。自家末梢血幹細胞移植療法を3例で行った。

悪性リンパ腫、ATL：JCOGなどの医師主導臨床試験や臨床治験を積極的に行なっている。令和3年度は悪性リンパ腫やATL患者約130例に対して加療を行った。また、11例に対して、キメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞(CAR-T)療法を行った。

移植：令和4年度は21例に同種移植を施行した。血縁間末梢血幹細胞移植が15例（含HLA半合致移植10例）、非血縁者間骨髄移植が0例、非血縁者間末梢血幹細胞移植が5例、臍帯血移植が2例であった。

膜原病：令和4年度は総外来受診患者数7,261人で、入院延べ患者数2,047人であった。関節リウマチ、全身性エリテマトーデス等から希少疾患、重症病態まで他科とも連携しながら幅広い診療を行った。

5. 高度先進的な医療の取組

先進医療に向けた研究：成人T細胞白血病・リンパ腫に対するインターフェロンα/ジドブシン併用療法とWatchful(ウォッチフル) Waiting(ウェイティング)療法の第Ⅲ相ランダム化比較試験(JCOG1111C)を行っている。

6. 臨床試験・治験の取組

臨床研究：急性白血病はJALSGに、悪性リンパ腫はJCOGにそれぞれ参加し、他大学を含めた多施設共同臨床研究を行っている。令和4年度は、主に以下の臨床試験・治験を実施した。

1. 造血幹細胞移植が適応とならない未治療の多発性骨髄腫患者を対象にisatuximabとボルテゾミブ・レナリドミド・デキサメタゾン併用療法の臨床的有用性をボルテゾミブ・レナリドミド・デキサメタゾン併用療法と比較する多施設共同、非盲検、ランダム化第III相試験
2. 前治療数が1~3の再発及び/又は難治性骨髄腫患者を対象にisatuximabとカルフィルゾミブ・デキサメタゾン併用療法をカルフィルゾミブ・デキサメタゾン併用療法と臨床的有用性について比較検討する多施設共同、非盲検、ランダム化第III相試験
3. 再発又は難治性多発性骨髄腫患者を対象としてteclistamabとダラツムマブ皮下投与製剤の併用(Tec-Dara)とダラツムマブ皮下投与製剤、ポマリドミド及びデキサメタゾン(DPd)又はダラツムマブ皮下投与製剤、ボルテゾミブ及びデキサメタゾン(DVd)を比較する第3相ランダム化試験(MajesTEC-3)
4. 再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象としたヒト化GPRC5D×CD3二重特異性抗体talquetamabの第1/2相、first-in-human、非盲検、用量漸増試験
5. ニロチニブによる第一選択治療で持続性の微小残存病変(MRD)の状態を達成したBCR-ABL1陽性慢性期慢性骨髓性白血病患者を対象とする単群、多施設共同、ニロチニブTreatment Free Remission試験
6. 再発又は難治性の成人T細胞白血病・リンパ腫に対するニボルマブの第II相医師主導治験
7. 未治療CD20陽性B細胞性濾胞性リンパ腫患者に対するIDE-C2B8-SC試験
8. 前治療歴のあるBTK阻害剤未投与のマントル細胞リンパ腫患者に対するLOXO-305(MCL)の第III相試験
9. BTK阻害剤の前治療歴がある慢性リンパ性白血病／小リンパ球性リンパ腫患者に対するLOXO-305(CL)の第III相試験
10. 成人の一次性免疫性血小板減少症患者に対するARGX-113 PH20 SC試験
11. 1レジメン以上の全身療法歴を有する濾胞性リンパ腫患者に対するR07030816(Mosunetuzumab)の第III相試験
12. 前治療歴のある慢性リンパ性白血病／小リンパ球性リンパ腫患者に対するLOXO-305(CL/SLL)とベネトクラクス及びリツキシマブ併用の第III相試験
13. 未治療の非胚中心B細胞びまん性大細胞型B細胞リンパ腫を有する70歳以下の患者を対象に、アカラブルチニブとR-CHOPとの併用療法を検討する第III相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験

14. 慢性リンパ性白血病／小リンパ球性リンパ腫患者を対象にピルトブルチニブ(LOXO-305)とイブルチニブを比較する非盲検無作為化第III相試験(BRUIN-CLL-314)

15. びまん性皮膚硬化型全身性強皮症患者を対象としたHZN-825の安全性、有効性、忍容性及び薬物動態を評価する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、反復投与、多施設共同試験(IIb)

7. 地域医療への貢献

県内外の臨床医・コメディカルに向けて血液・感染症に関する研究会(コロキウム)を症例検討と学外の研究・臨床の最先端で活躍中の先生方の講演という形式で開催した。また、当科医師が患者様向けの公開講座や講演会などの講師を担当し、情報提供や教育に努めている。更に、県内の地域中隔病院に診療医を派遣し、血液疾患・膠原病・感染症の安定した診療の提供を行うとともに診療連携を深めている。

8. 医療人教育の取り組み

血液・リウマチの専門医・指導医の育成・専門教育を行うとともに、臨床の疑問を研究する意識を持った“physician scientists”、地域医療を担い幅広い内科診療を行う“総合内科医”、包括的ながん診療を行う“腫瘍内科医”的な育成を、研究グループ、多数の関連病院の連携・協力の下で努めている。

9. 研究活動

ATL: 成人T細胞白血病の発症機構、病態の解明と治療への応用を中心に取り組んでいる。原因ウイルスであるHTLV-1の病原性を解析し、関連疾患発症における役割を明らかにすると共に、免疫学的な解析にも取り組んでいる。

白血病: 白血球の分化転換に決定的な役割を果たす転写因子BCL11Bの機能について白血病患者検体および細胞株を用いて解析している。CMLについてはCML-CSG(CML-cooperative study group)として全国多施設共同研究を行っている。

悪性リンパ腫・多発性骨髄腫: 主なテーマは、発癌のメカニズム解析、病態解析、新規治療法の開発などである。臨床で得られた疑問を実験室で解決すること、最終的に臨床へ還元できる研究を念頭においている。

移植: 難治性造血器腫瘍に対する同種移植療法の安全性・有効性の向上を目指して、移植後病態解析ならびに新規移植法の開発を行っている。

膠原病: 「PLEASURE-J」、「リウマチ性疾患治療中に生じたCOVID-19感染症に関する研究」、「統合レジストリによる多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築」など多施設共同研究に参加して膠原病診療マネジメントの開発・改良に参加している。